

# 2022年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：日本体育大学

【2022/5/14】

この試合のプレー集計

1部					
筑波大学	18	6	—	1	3 成蹊大学
		5	—	1	
		7	—	1	
			—		
			—		
			PSO		
審判:			唐木 慎太郎		
			深谷 周平		

筑波大学	29	SH数	16	成蹊大学
	12	速攻数	3	
	18	ST・SB	6	
	12	SH・P誘発アシスト	5	
	63%	GK阻止率	25%	
	6	EX反則数	4	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

1P

筑波大⑫眞板シュートをセーブした成蹊大GK⑬山城から成蹊大の得意な攻撃パターンに持ち込み、⑪篠崎がインサイドで退水を誘発して④山本が決めて成蹊大が先制点をあげた。しかし力の差がある筑波大はすぐさまセンター中心の攻撃で、一気に6連続得点。成蹊大は、攻撃権を得ても強いプレッシャーを受けて、フリースロー遅延によるコントラ反則が相次ぎ、失点を重ねてしまった。

2P

少しは落ち着きを取り戻した成蹊大は、やや遠目からではあるがシュートを放てる展開に。しかし、そのシュートを起点に筑波大速攻に追従できず、連続5失点。しかし最後は、⑩富永がペナルティを誘発してそこを決め、筑波大11-2成蹊大で前半を折り返した。

3P

優位に立つ筑波大は開始直後のペナルティを⑫眞板がGK正面に打ってしまうが、そのリバウンドをつないで④大角が落ち着いて決めた。その後は選手を入れ替えながら猛攻を続け、最後は⑤竹内がカウンター攻撃を決め、筑波大18-3成蹊大となった時点でコールドゲーム成立。

成蹊大としてはダブルヘッダーが日体大と筑波大という対戦となり、2試合目にはかなり疲労の色が濃い状況で、1部復帰としてはやや過酷な日程であった。ただ、今シーズンから指導役となった前日本代表の志水コーチの指示にも少しずつ慣れてきた場面も多々あり、しっかり守ってからの成蹊大得意の⑪篠崎ドライブ攻撃へのパスが出せるようになれば楽しみでもある。第1ピリオドや第3ピリオドでは、そうした得意パターンでしっかり得点したことは明るい材料であろう。